

新型コロナウイルス感染予防対策ガイドライン

弊連盟では上記の大会において、公益財団法人日本陸上競技連盟の新型コロナウイルスの感染拡大防止のガイダンスを参考に、下記の内容を作成しています。また、開催地の大阪府より開催の許可を得て開催いたします。安全、安心な大会運営を目指しますので遵守をお願いします。なお、守っていただけない場合は、参加（入場）を認めない、また参加（入場）していても競技場から退場していただくことがありますので、ご理解ご協力をお願いします。

【2022 第 1 回学連競技会開催の前提条件】

1. 大阪府からイベントの開催が認められている。
2. 大阪府において、新型コロナウイルス感染症に関する診療体制が整っていて、もし会場で発熱者が出た場合に、すぐに診察を依頼して受け入れてもらえる体制が整っている。

I 2022 年度第 1 回学連競技会開催にあたっての基本事項

1. 感染症対策

- ・ こまめな手洗いを推奨し、多くの人が頻繁に触れる箇所は清掃・消毒し、環境を清潔に保つ。
- ・ マスクを着用し、咳をする際には、咳エチケットにより飛沫を飛ばさないようにする。
- ・ 2022 年度第 1 回学連競技会に関わる全ての人の体調管理を徹底する。
- ・ 入場者は「大阪府コロナ追跡システム」の登録を行うこと。

2. 危機管理体制の設置

- ・ 感染症予防対策の策定、意思決定を行う「新型コロナウイルス感染症予防対策室」(以下、対策室)を設置する。
- ・ 対策室は本連盟事務局長、大阪陸協理事、関西学連又は大阪陸協派遣医師が担う。
- ・ 大会関係者が発熱、風邪の症状がある場合、感染症予防の観点から必ず以下の経路で報告する。
関西学連関係者：本連盟事務局長 / 競技役員：大阪陸協理事

II 2022 年度第 1 回学連競技会開催にあたっての配慮事項

1. 感染防止対策の基本

(1) 3 密を回避（密閉・密集・密接）

- ① 密閉空間（換気の悪い密閉空間である）の対策
- ② 密集場所（多くの人が密集している）の対策
- ③ 密接場面（互いに手を伸ばしたら届く距離で会話や発声が行われる）の対策

(2) 競技者及びチームスタッフに対し実施すること

- ① 競技会 1 週間前から当日および終了後 2 週間の体調管理・検温を義務付ける。
- ② 大学代表者は、入場者全員の体調を確認した証明として「確認書」を受付へ提出する。なお、**当日、「確認書」を提出しない大学の競技会出場を認めない。**提出が遅れる場合、事前に理由と共に弊連盟まで連絡すること。
- ③ 体調が不確かな競技者がいた場合は、医師の指示状況により参加を許可しない。
- ④ 競技中を除きマスクの着用を義務とし、マスクをしていない人に対し注意を促す。
- ⑤ ミーティング等は、競技場内、競技場周辺等いかなる場所においても禁止とする。
- ⑥ 運動中につばや痰を吐くことは絶対行わない。
- ⑦ 参加大学の当日代表者は、自校の参加者の感染症対策状況を責任持って管理する。

(3) 競技役員/補助員について

- ① 文書・メール等を活用し、事前打ち合わせを減らす工夫をする。
- ② 新型コロナウイルス感染症が重症化しやすい基礎疾患を持つ競技役員、高齢の競技役員にできる限り委嘱しない。
- ③ 3密の回避行動、競技場内では必ずマスクを着用することを徹底する。
- ④ 共用物の使用後は手洗い・手指の消毒・洗顔を欠かさない。
- ⑤ 対人距離を確保するため、医務室の広さを十分に確保し、医師/看護師のいずれかを医務室に常駐させる。万が一感染が発生した場合に備え、競技場内に隔離部屋を設ける。
- ⑥ 個人防護服を準備する（フェイスシールド、手袋、マスク、防護服など）
- ⑦ 競技役員と競技者の動線をできる限り分ける。

(4) 観客(OB、OG、選手の親族等)について

- ① 今大会は一般観客の入場を認める。
- ② 観客は過去1週間の体調に問題がなかった旨を申告し、入場許可証を提示することで入場可能とする。
- ③ 声を出しての応援は禁止とする。(大学関係者も同様)
- ④ 詳細は別紙「観客の皆様へ」を参照すること。

2. 競技種目ごとの配慮事項

(1) 競技運営・種目共通の配慮事項

- ① 腰ナンバーカードは使い捨てのシール式のものを使用する。
- ② 競技開始前（招集～スタート地点での待機）
種目組ごとに招集時刻を設定する。招集所では競技者同士の対人距離を確保し、手続きを簡略に行う。
- ③ 競技中・フィニッシュ後に倒れた競技者は、防護体制（マスク、フェイスシールドなど）を整えたスタッフで対応する。
- ④ レース後手洗いへ直行する動線を確保し、手洗い・洗顔を徹底するように促す。
- ⑤ 記録発表の工夫
滞留を防ぐため正面玄関前の記録掲示板に張り出さない。リザルトは電光掲示板とHPにて通知し、電光掲示板に掲載した時刻を正式発表の時刻とする。
- ⑥ 会場内では、新型コロナウイルス感染症対策を電光掲示板やアナウンスを通して積極的に周知する。

(2) トラック種目の配慮事項

- ① 2～3組ずつスタート地点に誘導し、待機場所にゆとりを持たせる
- ② すべてのレーンに配置するが、スタート地点やフィニッシュ後に留まることは短時間とする。
- ③ 招集中・移動中・待機中は選手および競技役員はマスクを着用する。
- ④ 給水の競技役員・補助員は競技開始前に手指を消毒し、マスク、手袋、フェイスシールド等を着用する。
- ⑤ 給水所にスポンジは使用しない。

(3) フィールド種目の配慮事項

- ① 待機場所における競技者同士の対人距離を確保し、必要のない会話は避けることを促す。
- ② 競技器具の共用は極力避ける。共用する場合、使用後の手洗い、手指の消毒、機器の消毒を行う。
- ③ 終了後の手洗い・洗顔の徹底を呼び掛ける。また、競技者は試技の前後に手指の消毒を実施し、競技役員は不用意に手で顔を触らぬように注意をする。
- ④ 滑り止めは、小分けして関西学連が配布するが、競技者が持参しても良い。共同使用を禁止する。
- ⑤ 助走練習、投擲練習時に並ぶ時は対人距離を確保するか、競技役員が1人ずつ順番に呼び出す。
- ⑥ 競技者同士の会話は極力避け、待機中はマスクを着用するよう呼びかける。

3. 施設における配慮事項

(1) 施設入場時の配慮事項

- ① 入退場口での手指の消毒液を準備する
- ② 対人距離確保の呼びかけ。
- ③ 体調管理チェックシートまたは確認書の提出を義務づける。

(2) 施設利用上の配慮事項

- ① 常時換気の実施（窓開け・戸開けの実施）※換気できない場所は利用しない。
- ② 諸室・招集所などの座席配置および直接の接触回避を工夫する。
- ③ 拡声器・通信機器を多用する。
- ④ 多くの者が接触する可能性がある箇所の清掃（消毒）頻度を増やす。
- ⑤ 雨天時の待避場所の確保・終了後、施設・設備・用器具の清掃・消毒を行う。
- ⑥ トイレ（便座、ドアノブ、水洗トイレのレバー等）を清潔に保つ。
- ⑦ 喫煙所は設置しない。
- ⑧ ゴミ箱を設置せず、ゴミは各自持ち帰るように事前に周知し、かつアナウンスをする。
※競技関係諸室におけるごみは回収担当者を置き、マスク、手袋を着用し、着脱後、手洗い・手指の消毒を行う。
- ⑨ 更衣室は一度に多人数が使用しないように、張り紙及び監督者を置き、滞在時間は短時間となるように指導する。
一度に使用できる人数は 10 人までとする。なお、シャワールームの使用は禁止する。
- ⑩ 発熱者が出た場合の、隔離用の部屋を確保する。
- ⑪ トレーナーエリアを設置しない。

4. メディア・取材への配慮事項

(1) 報道関係者への依頼

- ① 会場内では手洗いや咳エチケットなどの実施を心がけ、取材時はマスクを着用する。
- ② 開催 1 週間前の体調管理・検温の義務と体調管理チェックシートの提出、および終了後 2 週間の体調管理・検温を行う。
- ③ 事前に関西学連に問い合わせを行い、本連盟が定める感染症対策を遵守する場合のみ入場を認める。

5. 競技会終了後の対応事項（以下の体制を整え競技会開催に臨む）

(1) 施設所有者・管理者への確認事項

- ① 競技終了後全ての箇所(机、いす、ドアノブ、パソコン、トイレ、スターティングブロック・投擲物・バトンなど)を消毒する。

(2) 参加者への周知事項と対応事項

- ① 参加者から新型コロナウイルス感染症を発症したとの報告があった場合や地域の生活圏において感染拡大の可能性が報告された場合の対応方針について、大阪府衛生部局並びに大阪市とあらかじめ検討しておく。
- ② 参加者は新型コロナウイルス感染症を疑うような何らかの症状が出現した場合は、必ず最寄りの居住地自治体の衛生部局に報告し、関西学連に報告する。
- ③ 競技会終了後、2 週間以内に新型コロナウイルス感染症と診断された場合は関西学連に報告する。
- ④ 感染症のまん延を防止し、感染症による健康リスクが個人や社会に与える影響を最小限にするために、感染症の発生状況等に関する情報を積極的に公表する必要がある。なお、当該情報の公表に当たっては、感染者等に対して不当な差別及び偏見が生じないように、個人情報の保護に留意する。